

○一般社団法人 日本森林学会 2016 年度第 3 回（通算第 458 回）理事会 議事録

日時：2016（平成 28）年 9 月 16 日（火）13:00～17:10

場所：日林協会館 4 階 中会議室

開催者：中村太士

出席者：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，田中浩，理事）堀靖人，竹中千里，曾根晃一，丸山温，宮本麻子，正木隆，山本美穂，佐藤宣子，大河内勇，平田泰雅，井出雄二，小島克己，井上真理子，監事）白石則彦，主事）細田和男，大橋伸太，上村真由子，松浦俊也，小長谷啓介，竹本太郎，橋本昌司，花岡創，宮本和樹，事務局）稲村崇子，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]

議長：中村太士

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 第 128 回大会における学会企画について

前回大会に引き続き、黒田副会長から大学院生や博士研究員の進路に関する企画、また正木理事から和文の論文執筆に関する企画が提案され、いずれも学会企画として開催することが承認された。一方、職業研究会については、開催校で例年行われている就職セミナーとの重複や、地理的に本企画のためだけに来場する学部学生は少ないと見込まれることから、主な対象を大学院生や博士研究員に変更して、佐藤理事を中心に内容を具体化していくことになった。さらに小島理事から、風致分野の周辺部門の再編について議論するための「林政・風致・経営，観光・レクリエーション，教育分野のあり方検討会」（責任者：田中伸彦会員（東海大学））が提案され、学会企画として開催することが承認された。

2. 第 128 回大会における保育室の設置について

曾根理事（第 128 回大会運営委員長）から、大会運営委員会としての原案が示された。保育室運営費用を受益者負担で賄おうとすれば利用人数により、また地域の物価水準や、保育委託先が民間か非営利団体かによっても変動するが、開催校によって大きく変動することは望ましくないといった議論があり、本大会での利用料金は前回大会と同程度に設定することになった。また 3 月 26 日は公開シンポジウムや授賞者講演が鹿児島大学から離れた会場で行われるため、保育室は 27 日～29 日の 3 日間に設置することが承認された。

3. 学生ポスター賞授与内規の改正

正木理事から学生ポスター賞の趣旨を明文化することが提案され、議論の結果「学生ポスター賞

は、学生会員の研究の奨励を目的として、日本森林学会大会において優れたポスター発表を行った学生会員に授与する」との記述を学生ポスター賞授与内規に追加することが承認された。

4. Korean Forest Society および Chinese Society of Forestry との交流について

平田理事から、前任理事より引き継いで Korean Forest Society と電子メールでの協議を進めてきたが、韓国側から中国を含めた三者での交流が提案されたこと、10月に北京で開催される IUFRO アジア太平洋地域大会で面会する予定であることが報告され、今後は Chinese Society of Forestry を含めた三者での MOU の締結に向けて協議を進めていくことが承認された。

5. JSPS 科研費「研究成果公開促進費」(国際情報発信強化)への応募について

本件は本年度の事業計画に挙げられているが、9月7日に行われた学術振興会での個別相談会の内容を踏まえて種々議論の結果、学会全体として長期的な展望をもって取り組むべき課題であることから、今回の応募は見送ることになった。

6. 前回までの議事録の承認

2016年度第2回メール理事会(2016年6月30日決議)および第3回メール理事会(7月27日決議)の議事録が誤植訂正のうえ承認された。

7. 次回理事会の開催時期について

次回理事会は連携学会長合同会議と併せて12月に開催することになった。

報告事項:

その他、下記の報告が行われた。

1. 第128回大会(鹿児島大学)の準備状況

曾根理事から、市民公開シンポジウム「木質バイオマス利用の現状と将来」や懇親会、企業展示、企業広告の募集、保育室などの準備状況が報告された。27日の懇親会は貸し切りフェリーでの洋上開催が企画されており、当日の研究発表の終了時間やシャトルバスの運行時間など、参加者の円滑な移動に配慮が必要という意見があった。また、会員以外の地域の行政職員などが、少額な参加費で傍聴できるような制度が設けられないかという提案があり、これに対し研究成果の還元や研究ニーズの共有という意義はあるが、会員との公平性や大会受付での混乱の可能性などの問題点が指摘された。代案として、例えば関係機関に人数を限定して招待状を配布するなど、他の方法も含め大会運営委員会でさらに検討することになった。

2. プログラム編成担当からの報告

小島理事から、第128回大会の部門委員会委員を選任したことが報告された。また公募セッション

ンには 11 件の応募があったが、プログラム編成委員会での審議の結果、1 件は部門別発表との差異が希薄であるという理由で不採択とし、10 件を採択した。一方、企画シンポジウムは応募 10 件をすべて採択したことが報告された。ポスター会場の面積が限られるため口頭発表が増えること、懇親会の 27 日は早めの時間帯で研究発表を終了する必要があること、学会企画が 4 件あることなどの制約の下で、大会運営委員会と協議しながらプログラム編成を行っていくという見通しが示された。

3. 中等教育連携推進担当からの報告

井上理事から、第 128 回大会における高校生ポスター発表の準備状況が報告された。大日本山林会からも記念品をいただけることになったこと、当日会場での表彰式を企画していること、研究発表ではないが林業大学校の紹介コーナーを検討していること、前泊の高校生向けに鹿児島大学のキャンパスツアーを実施していただけることになったこと、などが報告された。

4. 第 129 回大会（高知大学）の準備状況

第 129 回大会運営委員会の後藤純一委員長（高知大学）の代理として堀理事から、高知大学を中心に、高知県立森林技術センターならびに森林総研四国支所からの参加も得て大会運営委員会を組織したこと、会期は 2018 年 3 月 26～29 日、高知大学朝倉キャンパスを会場として検討していることが報告された。これに対し、授賞者講演を会期中日に配置することを理事会として大会運営委員会に要望すること、高校生ポスターは継続性の観点から、鹿児島大会の時点で高知大会の担当者を決めておくことが望ましいことが指摘された。

5. 総務担当からの報告

堀理事から、JSPS 科研費（学術定期刊行物、研究成果公開発表 B）の実地検査が 8 月 5 日に行われ、一部指摘があったが、後日追加資料を提示して完了したことが報告された。これに対して、5 年おきに実施される実地検査に備え、役員が交代しても着実に対応できるよう引き継ぐ必要性が指摘された。また、2017 年度の JSPS 科研費（研究成果公開発表 B）については、応用森林学会の発案により日本森林学会として応募に向け準備中であることが報告され、過去の応募における不採択の理由を踏まえて内容を検討すべきという意見があった。さらに農林水産省が「日本農業遺産」を創設したことを背景として、本学会の「林業遺産」について林野庁と意見交換を行ったことが報告され、まずは林業遺産選定委員会で今後の対応を検討することになった。この他、JSPS 科研費（研究成果公開促進費）の個別相談会、防災学術連携体の活動状況、日本農学会シンポジウム「山の農学－『山の日』から考える」の開催、会員数の動向について報告があった。

6. 日林誌編集担当からの報告

丸山理事から、特集企画「バイオマス発電所は燃料の未利用木材を安定的に確保できるのか」の内容や、日林誌論文賞の選考状況、現在の編集状況が報告された。投稿数が減少傾向にあることに對して、分野によっては長編論文の希望があり、投稿促進のためにも超過ページ料金の引き下げを検討して欲しいという意見があった。本件は財政とも関わるので、会計担当も交え検討していくことになった。また、WEB of Science への収載（Impact Factor の取得）や Scopes への収載の進捗状況についても報告があった。

7. JFR 編集担当からの報告

福田理事の代理として堀理事から、現在の編集状況、22 巻からの Taylor & Francis 社への移行準備状況、Ecological Research との合同特集号、特集「福島原発事故後の森林生態系での放射性セシウム動態：初期 5 年間の経験」の原稿募集、JFR 論文賞の選考委員会を組織し、9 月 8 日まで候補論文の推薦を受け付けていたこと、21 巻 5 号に 1 件の論文撤回の報告を掲載すること、海外編集委員として新たに Chuankuan WANG 博士（中国、東北林業大学）を選任したこと、2015 年の Impact Factor は 0.929 で、前年の 0.775 より上昇したこと、5-Year Impact Factor は 1.121 であったことが報告された。JFR は出版社の変更を機に A4 判にすることになったので、日林誌や森林科学も A4 判に統一したらどうかという意見があり、年度替わりに移行する方向で検討することになった。

8. 森林科学編集担当からの報告

太田理事の代理として松浦主事から、現在の編集状況や、CiNii の閉鎖に伴う J-Stage への移行作業の進捗状況が報告された。また、Pay per View システムの導入可能性やパスワードによる閲覧制限期間の短縮による得失についての検討結果が報告され、前者は費用負担が大きいため、閲覧制限期間を 2 年間から 1 年間へ短縮することで理事会の了承が得られた。

9. 広報・ウェブサイト編集担当からの報告

宮本理事から、ウェブサイト編集委員会のアドレスを新設したこと、メールマガジン 73~76 号の発行、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新および閲覧状況について報告があった。理事の担当区分が前期とは異なっているため、次回定時総会に向けて定款・規則等の見直しを準備する必要性が指摘された。

10. 表彰担当からの報告

正木理事から、日本学術振興会育志賞と日本農学進歩賞にそれぞれ 1 名を学会として推薦したこと、科学技術賞（若手科学者賞）は応募者がいなかったが、他団体から応募した本学会会員の共同

推薦者になったこと、学会各賞は9月30日締め切りで推薦を受け付け中であり、受付期間の延長をしないことを目標に広報に努めていることが報告された。学会各賞の表彰委員による投票については、森林学会が契約しているサーバーからの選考資料のダウンロードと、代議員選挙で利用した電子投票システムとの組み合わせによって行う方針が説明された。日本農学賞は例年通り会員からの推薦を募り、理事会で推薦者を決定することになった。第128回大会における学生ポスター賞の選考について、審査委員の負担軽減と集計時間の短縮のため、各審査委員は担当するポスターのなかから上位3件のみを点数評価し、さらに2名以上の審査委員が上位3件に選んだポスターのみの得点を集計して順位づけする、という方法に変更することが報告された。

11. 企画、林業遺産選定担当からの報告

佐藤理事から、風致部門の委員の不足を補うため新たに深町加津枝会員（京都大学）を林業遺産選定委員に選任したことが報告された。また、今年度の公募推薦の締め切りを12月31日とし、来年4月中旬までに選定作業を行い、5月（予定）の理事会で選定結果を報告するというスケジュールが示された。また、認知度の向上と応募促進のため、関係機関や連携学会などへの働きかけが必要なこと、選定された林業遺産の所有者や管理者にとって目に見えるメリットにしていくことが検討課題として指摘された。

12. 国内研究機関連携担当からの報告

井出理事から、国内研究機関連携に関するアンケート調査の案が提示され、10月の実施に向けてさらに内容を検討していくことになった。

13. 会計担当からの報告

竹中理事より、第127回大会（日本大学）の決算が報告され、参加者が見込みより多かった一方、会場費は見込みより少額であったことなどから、約100万円の収入超過となり、超過分は本部会計「指定正味財産（大会準備引当資産）」に繰り入れたことが報告された。また2016年度8月31日までの半期決算の報告があった。2015年度監査指摘事項への対応として、正味財産増減計算書の「電子図書等」という費目を実態に即して「ロイヤリティ等」に修正したこと、銀行口座1件を期末までに解約する方針であることが報告された。また、同じく監査指摘のあった、冊子体保管費の節減策は各編集担当とも協議のうえ、次回理事会に具体案が示されることになった。

議事録作成者：堀靖人、細田和男